

第 59 回 日本生殖医学会
東京、2014.12.04-05

Long 法における OHSS の重症化予防のためにカベルゴリンと柴苓湯併用投与は有効である

伊藤 啓二郎

【背景】調節卵巣刺激に引き続き発生する卵巣過剰刺激症候群 (Ovarian hyperstimulation syndrome: OHSS) は IVF の重大な合併症であり重症化を避けるためカベルゴリン投与の有効性が示唆されている。今回われわれは止痢作用や浮腫軽減作用を持つ柴苓湯をカベルゴリンとともに投与することにより OHSS の症状が軽減できるかを検討した。

【対象と方法】

2011 年 9 月～2013 年 8 月に Long 法で調節卵巣刺激を行い採卵決定時の E2 > 3500pg/ml の症例は全胚凍結を行った。これらのうち研究実施に同意を得られた 156 例を、A 群 (73 例) : 投薬なし、B 群 (36 例) : カベルゴリン 7 日間投与、C 群 (47 例) : カベルゴリン+柴苓湯 7 日間投与の 3 群に分け、採卵から 7 日後に卵巣体積指標 (最大径 x 最小径 x 最小径)、腹水量、血算、重症度を比較して OHSS の症状が軽減するかを比較した。統計解析は t 検定を行い $p < 0.05$ を有意差ありとした。

【結果】年齢 (34.8 ± 3.2 vs 35.1 ± 3.9 vs 35.5 ± 3.9) と採卵決定時の E2 値 (5388.2 ± 1922.1 vs 5611.9 ± 1974.8 vs 5549.6 ± 1827.9) は各群間で差はみられなかった。A 群と B 群、B 群と C 群では各指標の比較で差はなかったが、A 群と C 群の比較では、卵巣体積指標 (267390.2 ± 135913.0 vs 216968.4 ± 129860.9) と重症度 (1.07 ± 0.73 vs 0.87 ± 0.54) は A 群より C 群が有意に小さくなっていた ($p < 0.05$)。

【考察】Long 法での OHSS 重症化予防にカベルゴリンにサイレイトウを加えて投与することが有効であることが示された。